

## 二国は祖父母と孫の関係

昨日は母の日でしたね。母親に限らず、父親や祖父母は皆さんより年上です。この人たちの存在があったから、今の自分がいるのですよね。当たり前だけど大切です。

では、今の日本があるのは、何が存在していたからでしょうか。その一つが中国だと私は思います。少なくとも、文化文学においては、中国がおじいさんとおばあさん、日本が孫の関係にあるような気がします。

今、中国というと、あまりよいイメージがありませんね。日本との関係もぎくしゃくしている時が多いようです。しかし、日本の文化文学は、中国のそれがあつたら誕生したと言っても過言ではありません。それを「詩」を例にして話しましょう。

日本も中国も、文学は詩から始まりました。それぞれの国で、初めて詩集ができた時代をみてみましょう。

日本の最初の詩集（和歌集）は奈良時代にできた『万葉集』です。西暦七六〇年前後にできたと言われています。

一方、中国の最も古い詩集は『詩経』と言います。紀元前九世紀から紀元前七世紀の詩が収められているので、成立もその頃かと思われます。

何気なく読んでしまった人たち、よく考えてね。『万葉集』が紀元後、『詩経』が紀元前ですからね。その差は千数百年ありますよ。中国で『詩経』が生まれた頃、日本では土器を作っていました。方や詩を作り、文字を使って記録していました。方や、土をこねこねして、土器を作っていました。この差が事実なのです。

『万葉集』は漢字で書かれています。『詩経』は中国の詩集なので、漢字で書かれていますのは当然です。日本の『万葉集』が漢字で書かれているのは、まだ日本独自の文字がなかったからです。仮名ができたのは次の平安時代になってからですからね。その仮名だって、漢字から誕生したのですから、中国から漢字が入ってこなかったら、日本には文字がなかったのかもしれないね。

一年生の「故事から生まれた言葉」や、三年生の「夏草（おくの細道）」そして、二年生の「扇の的（平家物語）」の中にも、中国の影響満載ですからね。今でこそ、中国は他の国からパクっていると言われますが、昔は日本が中国の影響を存分に受けていたのですよ。

（五月十一日 記）

